

(8) さつげいわし漁獲試験

1. 毎年経営で困る問題は餌料の問題である「さつげいわし」は各地に見受けられるが之が餌料として適するか否かははっきりしないのと漁獲の方法である。今回は漁獲方法と養養方法に就いて下記の通り試験したが初めての事と設備と適当な網具がないため目的を達することが出来なかつた。

2. 実施方法

A	使用漁船	漁集丸	30トン 65HP
B	漁法	地主用垣網	20反
C	漁場	渡嘉敷港内	
D	漁期	1956年11月10日~11月12日まで	

3. 実施概要

1. 試験経過

11月8日6時垣網設置準備、13時投網開始

14時40分投網終了、魚群(約1,000斤)を完全に包囲し干潮を利用し夕暮と共に魚群併合に出るのを全員存期し袋網に魚群の入るのを待った。昼間網影に群集していた魚群も暗くなると一斉に動き出し垣網に突入逃避した。

垣網が七節であつたため魚群は殆んど網目を通り逃れおずか袋網に約50斤程度入つただけであつた。

活魚試験、漁獲された魚を活魚網を作り之に移して活魚試験をしたが、翌朝までは殆んど死滅していた。

これは一応網目に刺つたのを活魚網に移したためと思おれるので再び試験の必要がある。

2. 航海経過

11月10日10時10分泊港発、12時40分渡嘉敷港着陸準備

11月11日13時投網開始、14時40分魚群包囲投網終了、日没と同時に網揚開始50斤余漁獲

11月12日9時50分渡嘉敷港発帰路に就く、同12時20分泊港着。

3. 所感

網目が大きかつたため袋網におとすまでに垣網を逃れたが(7節)12節の網なら完全に漁獲出来ると思う。

尚夜間操業でなく16時頃の潮なら良かつたと思う。魚体3寸5分餌料としては最速と推量される。